

みづはしかねひろ なかぼんぼ  
**富山市水橋金広・中馬場遺跡**

### はじめに

水橋金広・中馬場遺跡は、白岩川右岸、標高 8m の沖積平野に立地する古墳時代と鎌倉時代～江戸時代前期を中心に営まれた集落・館跡です。

平成 11、12、14～16 年度の発掘調査で、鎌倉時代から江戸時代前期（約 800 年前～300 年前）にかけての遺構・遺物を確認しました。

### 貴重な双六盤(すごろくぼん)が出土した！

平成 11 年度の調査では、安土桃山時代（約 450 年前）の大溝で区画された敷地の中に、井戸跡や方形竪穴状遺構、掘立柱建物が確認され、方形竪穴状遺構から、完形の厚板状の双六盤が出土しました。

当時のすごろくは盤双六と呼ばれる二人対戦のゲームで、5 種類ほどの遊び方が知られています。

双六盤はケヤキを使用しており、盤の収縮を和らげるための埋木はクロベです。盤面には罫線が引かれています。底部中央には台形の「ヘソ」があり、駒石を盤に置くときの音響効果をねらっています。

このような双六盤は、「鳥獣戯画」「石山寺縁起」といった絵画に描かれ、存在は知られていましたが、厚板状の盤が完形品で出土したのは全国で初めてです。

遺跡の南北約 2 km に、小出城と仏生寺城があり、遺跡はこれらの城に関わる館跡の可能性がります。住んでいた武将達が双六に興じていたかもしれません。（※「双六盤」は、富山市考古資料館に展示中です。）

### 河川漁にかかわる遺物

平成 12 年度の調査では、東西に横切る幅約 2.7m の道路の側溝から、全長 38 cm、先端幅 19 cm の鉄製の漁具「ヤス」と、井戸の底から、木摺臼の下臼を逆さまにし、水溜めとして転用された木製品が出土しました。木摺臼の側面全面には、「ヤス」で魚を突く図や釣り針で魚を釣る図、漁具を描いたと思われる図など鋭い刃物で刻んだ線刻画が描かれていました。「ヤス」が出土した溝と線刻された木摺臼が出土した井戸は、一緒に出土した越中瀬戸焼などの時期から、どちらも江戸時代前期に埋まったと考えられます。

（※「ヤス」は富山市考古資料館に展示中です。）

### 中世の館跡の様子が明らかに！

平成 14 年度の調査では、遺跡北寄りで室町～江戸時代の大溝で区画された敷地内に掘立柱建物 10 棟、井戸、溝、竪穴状遺構、土坑が確認されました。

井戸が密集し、井戸からヤスの線刻画のある木臼も出土しています。密集した井戸跡からサケ・マス加工用の地下水を汲み上げていた、河川漁に関わる館跡と推測されます。

江戸時代の文献資料には、白岩川流域の村々に河川役（鮭・鱒・鮎に対する税金）を課することが記され、大規模なサケ・マス漁が行われていたことがうかがえます。

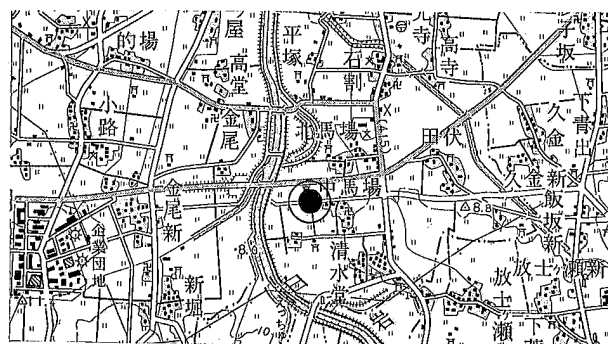
平成 15～16 年度の調査では、遺跡南寄りで平安末～鎌倉時代を主体とする大溝で区画された敷地内に掘立柱建物 15 棟、井戸、溝、竪穴状遺構、土坑が確認されました。

漆器が多く出土していることから、村落領主階級の館跡と推測されます。

遺構の分布状況から、中世前期は遺跡南寄りに、中世後期は遺跡北寄りに館を構えていたようです。

水橋金広・中馬場遺跡の調査によって、中世の館跡の様子が明らかになり、出土した双六盤やヤス、木摺臼などの遺物から、当時の人々の生活を知るのに貴重な資料が得られました。

（作成：細辻）



遺跡位置図



双六盤出土地点(●部分)



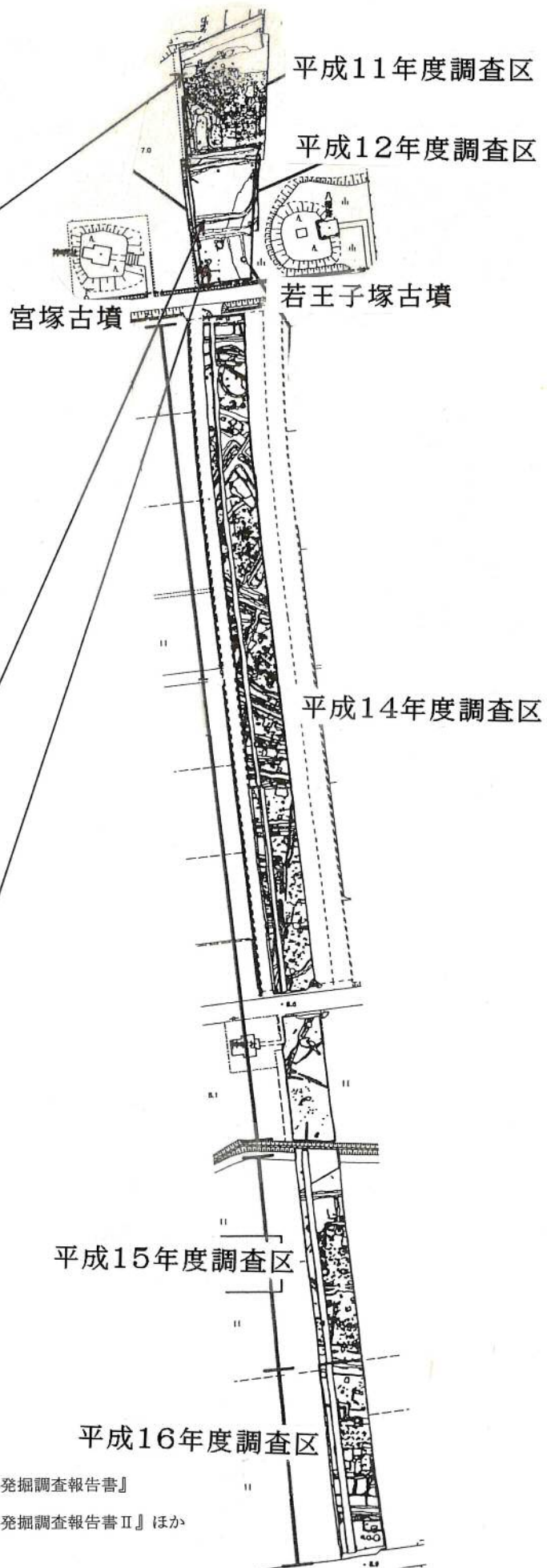
出土した「双六盤」



「ヤス」出土地点



木摺臼出土地点



【引用・参考文献】

富山市教育委員会 2001 『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』

富山市教育委員会 2006 『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ』ほか

なお、写真は、富山市埋蔵文化財センターホームページ

(<http://homepage2.nifty.com/kitadai/center.htm>) から転載しました。

年度別調査区割図 (1:2000)